

クラウドファンディング 利用のイロハ

インターネットで新しく楽しい支援のしくみ

本資料は、福岡県・NPOボランティアセンターと、NPO法人アカツキの協働により
企画、制作しています。

皆さんは、NPOに資金的な支援をしたことがありますか？一口に「資金的な支援」といっても、街頭募金や募金箱への募金、銀行振込、団体への手渡し、寄附つき商品^{※1}の購入など様々な方法がありますが、近年、メディアなどで注目を集めているのがオンライン支援サイトを活用した「クラウドファンディング」です。

「クラウドファンディング」とは、「クラウド（C r o w d）＝群集、大衆」と「ファンディング（Funding）＝資金調達」を組み合わせた造語で、インターネットを通じて不特定多数の個人から比較的小額の資金を調達する手法のことです。^{※2}

多くの場合、民間の企業が提供する「READYFOR?（<https://readyfor.jp/>）」や「CAMPFIRE（<http://camp-fire.jp/>）」などのオンラインサイトを利用し、NPO等が不特定多数の個人に対して、自分たちが取り組みたいプロジェクトへの資金提供を呼びかけます。期間内に目標金額に到達すると支援金を手にすることができ、そのうちの一部が手数料としてオンラインサイトに支払われます。

近年、クラウドファンディングは資金調達の方法として広がりを見せており、例えば、READYFOR?では2011年4月のオープンから2014年11月までの約3年半の間に、約1600プロジェクトの資金調達を行い、これまで日本最大の合計で6万3千人から約8億4千万円が支援されています。^{※3}

本稿では、新しい資金的支援の方法として注目を集めている「クラウドファンディング」について、その特徴・ポイントをご紹介します。

※1 寄附つき商品

消費者が商品・サービス等を購入することに一定の割合で、企業等がその売り上げの一部をNPO等に寄附する方法。企業とNPO等の協力によって実現する寄附の手法であり、企業と消費者の関係を活かした寄附の仕組み。

一例として、地域の自然や環境・景観の保全活動に対し1本につき1円を寄附するビールや、売り上げ1リットルにつき10リットルの水をアフリカの井戸の開発によって供給できるよう売り上げの一部を寄附するミネラルウォーターなど。

※2 福岡県NPO・ボランティアセンターが発行するNPO向け情報誌『Con te vol.35 2014 夏号』では、NPO向けにクラウドファンディングを紹介しています。図表や具体的事例などを使ってわかりやすく解説していますので、こちらもぜひご一読ください。

→ <http://www.nvc.pref.fukuoka.lg.jp/books/index>

※3 READYFOR?公式Webサイト「READYFORとは」ページより抜粋

→https://readyfor.jp/about_more

クラウドファンディングの基本的な仕組み

(抜粋：Con te vol.35 2014 夏号)



クラウドファンディング・プロジェクトの一例

(写真提供：NPO法人ドネルモ)

READYFOR[?] は日本初のクラウドファンディングサービスです。

いいね! 3.6万

新規登録 ログイン

プロジェクトを始める

プロジェクトを探す

READYFOR? 3 YEARS 登録に充てられて3周年、ロゴが新しくなりました!

READYFOR とは

超高齢化する「これから」を、多世代で話す場をつくりたい!

このプロジェクトをウォッチする

ホーム 新着情報 9 応援コメント一覧 80

山内 泰

NPO法人ドネルモ代表理事。ドネルモは「自分たちが求める状況を、自分たちで作ろうとする人たち」を応援する団体。「地域活動はクリエイ

現在の達成金額	462,000 円
目標金額	400,000 円
スポンサー募集終了まで	終了しました
支援した人数	60 人

✓ プロジェクトが成立しました!

このプロジェクトは 2014年1月31日(金) に成立しました。

1. プロジェクトがわかりやすく紹介されていて、支援の方法も簡単です

クラウドファンディングのサイトでは、支援を求める団体が、プロジェクトの目的や内容、目標資金額とその用途、支援の必要性などをアピールしています。

写真や図表、動画などを使って、よりわかりやすく伝わるような工夫が凝らされていますので、あなたは、それを見ることで、プロジェクトが解決しようとしている社会課題は何か、その解決策は適切か、なぜ支援金が必要かなどを知ることができます。

実際に、支援する／しないにかかわらず、クラウドファンディングのサイトを通じて、社会課題や解決に向けた取り組み、団体の想いを知ることができますし、NPOにとっては自分たちの活動を知ってもらっただけでも嬉しいと感じています。

プロジェクトに支援をしようと思ったら、その方法も簡単です。プロジェクトが紹介されているページからそのままクレジットカードで支援金の決済ができます。はじめて支援をする際はサイトへのユーザー登録が必要な場合がありますが、サイト上のボタンひとつで、TwitterやFacebookなどのソーシャルメディアのアカウント情報を取り込むことができるので、煩わしい入力作業も必要ありません。一度ユーザー登録することで、いつでも・どこでも、パソコンやスマートフォンから、気になるプロジェクトに簡単に支援を行うことができます。

また、もし支援をするところまでは心が動かなかったとしても、ソーシャルメディアの「リツイート」や「いいね」、「シェア」により、あなたの知人にプロジェクトのことを拡散できるなど、資金以外の応援の方法があることも魅力のひとつです。

2. 魅力的なリターンがあります

クラウドファンディングの特徴の一つは、支援をする金額とその額に応じたリターン（お返し）が、メニュー形式で設定されていることです。

例えば、3,000円ならサンクスレター（お礼状）とプロジェクトの報告書が送付され、5,000円になるとそこにプロジェクトで制作した物品や団体オリジナルのグッズが加わり、さらに10,000円ならばワークショップへの参加権が追加される、というように、団体が工夫を凝らしたリターンが支援金額に応じて準備されています。

リターン（お返し）があるので、「寄附」とは異なり、ただ一方的にお金を渡すだけという行為に心理的抵抗がある人にも使いやすい仕組みになっています。

また、リターンのやりとりがあることで、支援をした後でも団体と支援者が必ずコミュニケーションを取る機会があるなど、“1度支援して終わり”にならない工夫がされています。

3. 一体感や臨場感、達成感を味わえます

クラウドファンディングサイトでは、支援金を集めている団体やそのメンバーの顔写真やプロフィール、想いが綴られており、団体のメンバーに、より親近感が持てるような工夫がされています。

また、どんな人たちが支援しているかが、サイト上に表示されるソーシャルメディアのアカウントによって判るので、同じプロジェクトを応援している一員であるという仲間意識を持つこともできます。

さらに、あなたが支援しようとしている、或いは、すでに支援しているプロジェクトに対して、現時点でいくら支援金額が集まっているのか、目標額までの達成度や残り時間がリアルタイムで表示されるので、団体のメンバーや他の支援者とともに、期間終了までのドキドキ・ハラハラの臨場感や一体感を味わえます。

そして、プロジェクトが目標金額の支援金を集めることができた暁には、単にお金を払っただけでなく、プロジェクトの実現に協力し、自分もプロジェクトをつくる側になって一緒にゴールした、という達成感を得ることができます。

いかがでしょうか。

日本では始まったばかりのクラウドファンディングですが、「面白くてワクワクする」新しい支援の手法として注目を集めています。

クラウドファンディング市場をより健全に発展させていくために、国の法整備や業界団体が設立されるなどの取り組みも進められており、NPOによる暮らしやすい社会づくりを促進するツールとして、大きく広がっていく可能性を秘めているようです。

参考図書

日本ファンドレイジング協会「寄付白書2013」2013年

近藤由美「世の中を良くして自分も幸福になれる「寄付」のすすめ」東洋経済新報社 2014年

山本 純子「入門クラウドファンディング」日本実業出版社 2014年